感染性胃腸炎について　～県民の皆様へ～

保健福祉部感染症対策課

＜感染性胃腸炎とは＞

感染性胃腸炎とは、様々なウイルスや細菌の感染によって引き起こされる感染症です。

病因物質として、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、アストロウイルスなどが知られています。

一年を通して発生していますが、特に冬季に流行する傾向が見られます。

１　感染性胃腸炎の原因となる主なウイルスと症状

ノロウイルス	ロタウイルス	サポウイルス	アストロウイルス
・主な症状は、下痢、嘔吐、吐き気、腹痛ですが、発熱は軽度です。 ・感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。 ・潜伏期間は、平均１日から２日です。 ・一般的に症状は２日から３日で軽快します。 ・特に乳幼児や高齢者等抵抗力の弱い方が発症すると重症化し、脱水症状を引き起こす場合があります。	・主な症状は、下痢、嘔吐、発熱で、白色の水様下痢便が特徴です。 ・ノロウイルスに比べて、発熱を伴う場合が多く、また、重症度が高いといわれるため、脱水症状に気をつける必要があります。 ・潜伏期間は、約２日です。 ・下痢や嘔吐は、３日から７日程度で回復し、発熱は通常半日から１日で治まります。 ・生後６か月から２歳を中心に乳幼児で多く発症します。	・主な症状は、下痢、嘔吐、吐き気、発熱です。 ・潜伏期間は、平均１日から３日です。 ・乳幼児に多く発症する傾向があり、近年では成人や高齢者の食中毒事例や集団感染事例も報告されています。 ・一年を通して発生がありますが、１０月から４月に発生が多いとされています。	・主な症状は、下痢、嘔吐、腹痛、発熱です。 ・症状は、ノロウイルスやロタウイルスに比較して一般に軽いとされています。 ・潜伏期間は、平均１日から４日です。 ・乳幼児に多く発症する傾向がありますが、高齢者施設での発生も報告されています。

２　感染経路

（１）ヒトからヒトへの感染（接触感染・飛沫感染）

患者の吐ぶつやふん便を触った手や、手で触れたものを介して口に入り感染します。

また、吐ぶつの飛沫から感染する場合があります。

（２）食品等からの感染（経口感染）

ウイルスで汚染された食品や水を摂取した場合や汚染されている二枚貝を生あるいは十分に加熱しないで食べた場合に感染します。

３　感染予防のポイント

（１）手洗い

・ふだんから、トイレの後、おむつ交換やトイレ介助の後、調理・配膳・食事の前には、必ず手を石けんで洗い（液体石けんが推奨されています）、流水で手をしっかりと流しましょう。

・手洗い後のタオルは共用せず、ペーパータオルを使用しましょう。

（２）吐ぶつ、ふん便の処理（ウイルスによる感染性胃腸炎）

・処理する人以外（子ども、高齢者等）が感染しないよう、処理が終わるまで、その場から遠ざけましょう。

・床等に飛び散った吐ぶつやふん便を処理するときには、使い捨てのガウン（エプロン）、マスク、手袋を着用し、汚物中のウイルスが飛び散らないように、ペーパータオル等で静かに拭き取り、拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）で消毒してください。

・おむつや拭き取りに使用したペーパータオル等はビニール袋に入れて密閉して廃棄してください。

・ノロウイルス等は乾燥すると空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、吐ぶつやふん便は乾燥しないうちに速やかに処理し、処理した後は十分に換気することが感染防止に重要です。

（３）食品の取扱い

・食品の中心温度 85℃から 90℃で 90 秒以上の加熱が有効とされています。

・特に加熱調理用の生の貝類は十分に加熱してください。

・下痢や嘔吐等の症状がある時は、調理や食品を直接取り扱う作業を避け、早めに医療機関を受診してください。

＜感染性胃腸炎にかかったら＞

・ウイルスを原因とする感染性胃腸炎については、特別な治療法がありません。治療は輸液などの対症療法に限られます。

・乳幼児や高齢者等の抵抗力の弱い方が感染すると重症になることがあるので、早めに医療機関を受診しましょう。

＜施設等で集団発生が疑われる場合＞

・最寄りの保健所や、かかりつけ医師に御相談ください。

・保育所、幼稚園、学校、高齢者施設等で発生した場合には、早く診断を確定し、適切な対症療法を行うとともに、感染経路を調べて、感染の拡大を防止する必要がありますので、速やかに最寄りの保健所に御相談ください。